

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	中水道整備事業							
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境保全担当係長 石川 広
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	水資源	コード	1 2 5
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	水資源の確保	コード	1 2 5 1
					単位施策(小)	中水道の整備	コード	1 2 5 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	雨水利用者及び中水道に関心のある市民	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		中水(雨水)の有効活用の促進を図り、水資源の有効活用し確保を行う。			
1-5 事務事業の内容	貴重な水資源の有効利用をはかるため、生活雑用水として雨水の活用促進を図り、その情報を必要とする者に積極的に情報を提供する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	中水利用情報を提供できる体制づくり	中水利用の重要性が認識されつつある。		中水利用施設設置費補助金制度の創設を求めている。	
	平成19年度	中水利用情報の収集に努めた。	雨水も資源であるという認識が生まれつつある。		中水利用施設の促進を図るには補助金制度の導入が必要である。	
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	中水道利用情報を求めた者		5(件)	10(件)	中水道利用に関心のある者の数

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	2	2								
	人件費 c(千円)	0	0								
	合計コスト d(b+c)(千円)	6	6								
	単位コスト d/a(千円)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...中水道に関する情報提供者数(市へ要求のあった件数)。直接事業費...事務経費。人件費...時給単価×2H分

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	2(件)	2(件)								
	後期目標値に対する達成度(%)	20.0(%)	20.0(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

4段階評価結果
A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
必要性(必要な事務事業であるか)
公共性(公が実施する意味があるか)
妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	情報の提供がなければ、市民・事業者の中水道利用の有効性を意識付けできない。		情報の提供を市民・事業者にしていく。
平成19年度	資源を有効利用する意識が高まりつつある。		補助金制度の創設が困難な状況下で利用促進を図れるようにする。	中水道の利用促進を図れるようにした。
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			